

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台昭和23年度予算要求(人員要求)(100周年記念誌資料1-25-2)**

アーカイブ新聞896号(2015年12月28日)に「東京天文台昭和23年度予算要求趣意書(100周年記念誌資料1-25-1)」という記事を書いた。この896号では戦後の東京天文台復興に尽力された第5代台長萩原雄祐が書かれたであろう昭和23年度の予算要求の趣意書に当たる部分を書いた。今回は、それに続く具体的事項の人員要求を記事にしたい。

先ず出てくるのは、職員配置予定表である。これまでの東京天文台は東京大学の附置研究所であったが、保時・報時、編暦などの業務を行う機関であり、教官が配置されていなかった。そこで他の東京大学附置研究所と同じように、研究を行う7部門の教官を要求し、

写真1のように14人を要求している。教官が教授、助教授、助手という呼称ではなく、1級官、2級官、3級官と記載されている。

技官については、部門と書かれているが、教官の研究部門単位でなく、技官の部門として1)保時、2)天文計算、3)器械保守と企画による観測、4)工務の4つが書かれており、要求単位が部門の中で細分されている。その詳細は写真2としてコピーを載せたが、読みにくいので表1を作製した。

部	職員配置予定表		
	1級官	2級官	3級官
精密天文時	—	—	—
恒星位置	—	—	—
小惑星彗星衛星	—	—	—
天体大気構造	—	—	—
太陽面現象	—	—	—
変光星新星	—	—	—
月惑星運動	七	—	—
計	七	七	一四

写真1

技官の部門は細分化され、

- 1) 保時：1. 時刻観測、2. 報時、3. 保時、
- 2) 天文計算：1. 恒星位置推算、2. 小惑星、3. 彗星、4. 衛星の位置推算、
- 3) 器械保守と企画による観測：1. 大赤道儀、2. 塔望遠鏡、3. 子午環、4. レブソルド子午儀、5. 連合子午儀、6. 天体写真儀、7. 太陽分光写真儀、8. スペクトロヘリオスコープ、9. ツァイス8吋赤道儀、10. トロートン8吋赤道儀、11. 彗星搜索儀、12. シュミット写真儀、13. 小赤道儀、14. 流星観測儀、15. 夜光観測儀、
- 4) 工務：1. 器械、2. 電気

と分類され、それぞれの人員の人数が写真2、表1のように記されている。

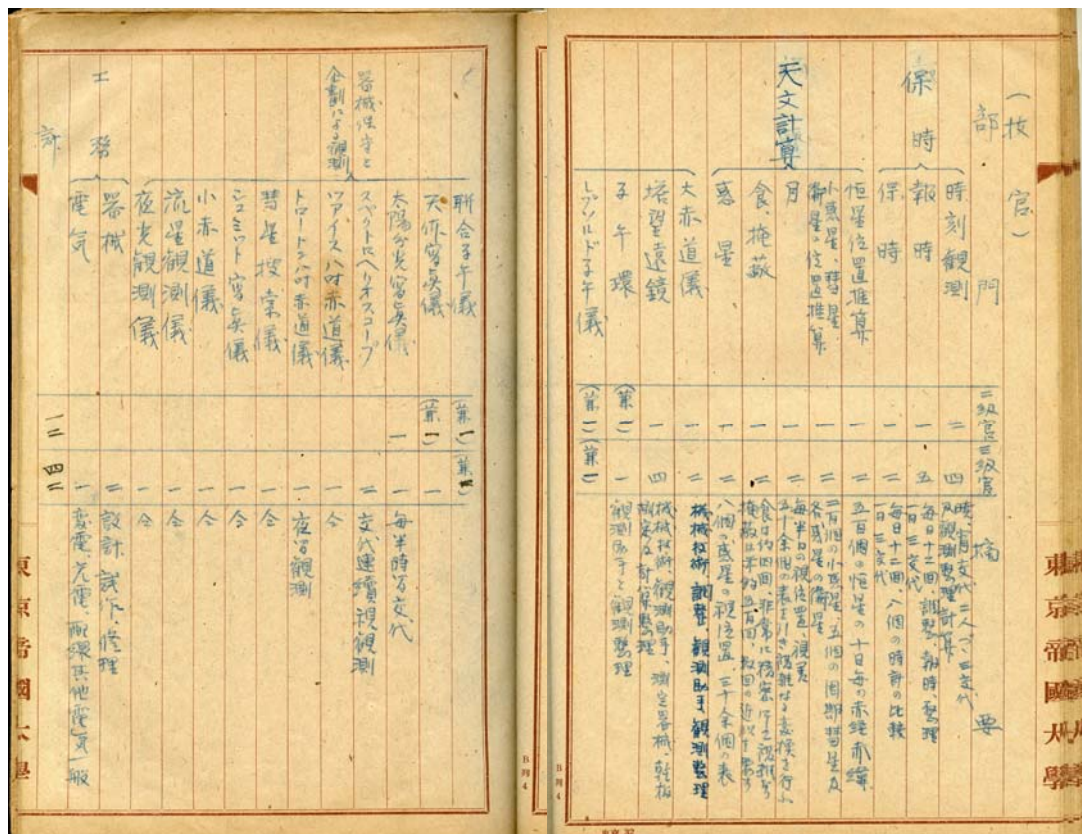


写真 2

技 官	2級官	3級官	摘 要
部 門			
保時			
時刻観測	2	4	晝、宵交代2人づつ3交代及観測整理計算
報時	1	5	毎日12回、調整、報時、整理、1日3交代
保時	1	2	毎日12回、8個の時計の比較 1日3交代
天文計算			
恒星位置推算	1	2	500個の恒星の10日毎の赤経赤緯
小惑星、彗星、衛星の位置推算	1	2	200個の小惑星、5個の周期彗星及各惑星の衛星
月	1	2	毎半日の視位置、視差 50余個の表を引き複雑なる変換を行う
食、掩蔽	1	2	食は約4個、非常に精密にして複雑なる掩蔽は年約500回、数回の近似を要す
惑星	1	2	8個の惑星の視位置、30余個の表
器械保守と企画による観測			
大赤道儀	1	2	機械技術、調整、観測助手、観測整理
塔望遠鏡	1	4	機械技術、観測助手、測定器械、乾板測定及計算整理
子午環	(兼1)		観測所と観測整理
レブソルド子午儀	(兼1)	(兼1)	
連合子午儀	(兼1)	(兼1)	
天体写真儀	(兼1)	1	
太陽分光写真儀	1	1	毎半時*(判読不能)交代
スペクトロヘリオスコープ		2	交代連続視観測
ツァイス8吋赤道儀		1	全
トローン8吋赤道儀		1	夜間観測
彗星搜索儀		1	全
シュミット写真儀		1	全
小赤道儀		1	全
流星観測儀		1	全
夜光観測儀		1	全
工務			
器械		2	赤経、試作、修理
電気		1	変電、光電、配線其他電気一般
計	12	42	

表 1

事務官は、事務が庶務、会計、図書、編集及出版の4種に分類されて表2のように要求されている。

事務官				
区分		2級官	3級官	摘要
事務		1		
庶務				庶務1、秘書1
	庶務		1	
	秘書		1	
会計				経理1、給与1、出納1、用度1
	経理		1	
	給与		1	
	出納		1	
	用度		1	
図書			1	
編集及び出版			1	
計		1	8	

表2

教官、技官、事務官の人員要求のまとめ、表にすると表3になる。

	教官			技官		事務官	
	1級官	2級官	3級官	2級官	3級官	2級官	3級官
要求人員	7	7	14	12	42	1	8
現在人員	0	0	0	11	19	0	2
別途要求人員 (分秒報時実施による増加人員)	0	0	0	4	7	0	1
計	0	0	0	15	26	0	3
増加人員	7	7	14	-3	16	1	5

表3

現行職員数は表4になる。

現行職員配置表							
区分	2級技官		3級技官		3級事務官		摘要
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	
編集	2	2(兼1)	5	4			3級技官1名詮衡中
時刻観測及び報時	2	1(兼2)	5	5			
太陽現象	1	1	2	2			
太陽分光	1	1	0	0			
天体分光	2	2	2	2			
写真及直視天体搜索	1	1	2	2			
恒星子午線観測	1	1	0	0			
惑星子午線観測	1	1	0	0			
大赤道儀における恒星観測	0	1	2	0			3級技官2名詮衡中
工作	0	0	0	1			
電気	0	0	1	0			
庶務	0	0	0	0	1	1	
会計	0	0	0	0	1	1(兼2)	
計	11	11	19	19	2	2	

表4

表3の中に書かれている別途要求人員とある「分秒報時実施による増加人員は」が、(昭和22年度追加予算として要求中)として次の表5が記されている。

「分秒報時実施」要員(昭和22年度追加予算として要求中)				
区分	技 官		事務官	摘 要
	2級官	3級官	3級官	
観測	2	4		朝方観測増加
保時	1	5		昼夜3交代隔日勤務
報時	1	2		
理論	1	1		
事務	0	0	1	
計	5	12	1	
現員	1	5	0	1日2回報時、1回観測
増加	4	7	1	1日24回報時、2回観測の為増員

表 5

またこれらの人員要求の根拠として、万国天文協会における天文学の部門が次のように上げられている。なぜか1. 2. がなく3. から始まっている。

3. 天文符号委員会
4. 暦表委員会
5. 文書委員会
6. 天文電報委員会
8. 子午線天文学委員会
AG 星表* (判読不能) 調整小委員会
9. 天文機械委員会
10. 太陽黒点及び黒点指示数委員会
11. 太陽彩層員会、紅焰活動写真委員会
12. 太陽輻射及び太陽分光委員会
13. 日食委員会
14. 標準波長及び太陽分光波長委員会
15. 彗星物理研究院会
16. 惑星及び衛星面観測委員会
17. 大陰委員会
18. 無線ニヨル経度測量委員会
19. 緯度変化委員会
20. 小惑星、彗星、衛星位置委員会
太陽視差小委員会
周期彗星ノ研究小委員会
22. 流星、黄道光其ノ他同様問題委員会
黄道光小委員会
夜光小委員会

- 23. 写真星図委員会
- 24. 恒星視差及び固有運動委員会
- 25. 天体測光委員会
恒星光度委員会
- 26. 二重星委員会
- 27. 変光星委員会
- 28. 星雲及び星団委員会
- 29. 恒星分光
新星小委員会
- 30. 恒星視線速度
基準視線速度小委員会
視線速度観測統合小委員会
波長小委員会
- 31. 時刻委員会
- 32. 特選区域 Selected Areas 委員会
- 33. 星辰統計学委員会
- 34. 恒星間物質委員会
- 35. 恒星構造委員会
相対性理論員会
古典出版委員会
天体力学委員会

次に、以下 4 件をまとめて大きな括弧書きで記されている。何を意味しているかはよく分からない。

- 国際測地地球物理連盟トノ協同委員会
- 18. 無線ニョル経度委員会
- 17. 経度変化委員会
- 31. 時刻委員会

また、なぜ、1. 2. がないのかもよくわからない。また、7. 21. もない。

この予算要求案では、万国天文協会における部門とあるが、これらの万国天文協会にあった委員会の名前は当時の天文学の事情を反映したものとして興味深い。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp